

2022年5月17日

「グリーンボンド」発行に関するお知らせ

相鉄ホールディングス株式会社

相鉄ホールディングス株式会社（本社・横浜市西区、社長・滝澤 秀之）は環境と社会双方の課題解決に資する事業の資金調達のため、サステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、当フレームワークに基づき、当社初のグリーンボンド（以下、本社債）を2022年6月に発行します。

詳細は下記の通りです。

1. 「グリーンボンド」発行について

①本社債発行の目的・背景

相鉄グループは、1917年の創立以来、鉄道業と横浜駅周辺および沿線地域の積極的な開発、そしてその地域での快適な暮らしをサポートする商品、サービスの提供を通じて事業を拡大し、近年では沿線外への積極的な事業展開にも取り組み、今日まで発展を遂げてきました。

近年の経営環境の変化を踏まえ、相鉄グループは前長期ビジョン「Vision100」のコンセプトを踏襲しつつ、2021年11月に新たなグループ長期ビジョン「Vision2030」を策定し、併せて、「サステナビリティの追求」による長期的な企業経営の維持および持続的な社会の実現への貢献のため、「相鉄グループサステナビリティ方針」を策定しました。

この度、こうした当社の取り組み推進のため、サステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、グリーンボンドによる資金調達を決定いたしました。

②本社債の概要

名称	相鉄ホールディングス株式会社第44回無担保社債 (相模鉄道株式会社保証付)(グリーンボンド)
発行総額	100億円(予定)
発行年限	5年(予定)
発行時期	2022年6月(予定)
資金用途	サステナビリティファイナンス・フレームワークにおけるグリーン適格プロジェクトである新型車両12000系・20000系・21000系の導入に係る借入金の返済資金に充当予定
ストラクチャリング・エージェント*	大和証券株式会社
主幹事証券会社	大和証券株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社、野村證券株式会社

*ストラクチャリング・エージェントとは、サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定やセカンドオピニオンなどの外部評価の取得に関する助言などを通じて、グリーンボンドの発行支援を行う者を指します。

2. サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定および外部評価の取得について

①サステナビリティファイナンス・フレームワーク策定

当社は本社債の発行にあたり、国際資本市場協会（ICMA）の定める「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」をはじめとする各原則に則したサステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、4つの要素（1. 調達資金の使途、2. プロジェクトの評価と選定のプロセス、3. 調達資金の管理、4. レポートング）について定めています。

- サステナビリティファイナンス・フレームワーク

<https://cdn.sotetsu.co.jp/media/2022/pressrelease/pdf/r22-70-8of.pdf>

②外部評価の取得

本フレームワークについて、株式会社格付投資情報センター（R&I）から、上述の各原則との適合性に対する外部評価（セカンドオピニオン）を取得しています。

- 株式会社格付投資情報センター（R&I）による外部評価（セカンドオピニオン）

<https://cdn.sotetsu.co.jp/media/2022/pressrelease/pdf/r22-71-18u.pdf>

③調達資金の使途

本サステナビリティファイナンス・フレームワークに基づき調達した資金は、下記のプロジェクトいずれか、または両方に充当予定です。

▶ グリーン適格プロジェクト

事業カテゴリー	適格プロジェクト	概要
クリーン輸送	新型車両 12000 系・20000 系・21000 系の導入  12000 系車両	省エネルギー機器として、電力回生ブレーキ付きの VVVF インバーター制御装置を採用しており、さらに 20000 系、21000 系では SiC ハイブリッドモジュールを採用することで、素子の損失低減と回生ブレーキ領域拡大による消費電力の削減を目指しています。また、車内照明や各種灯火類の LED 化を行って消費電力の低減と長寿命化を図っています。

▶ ソーシャル適格プロジェクト

事業カテゴリー	適格プロジェクト	概要
手ごろな価格の基本的インフラ設備	ホームドアの整備	ホームにおけるお客様の転落・接触事故を防止し、安全で安心してご利用いただけるよう、相鉄線全駅へのホームドアの設置を進めています。

以上